

2009年度事業計画

1. 活動方針

2009年度は、組込みソフト産業推進会議（以下、推進会議という。）が設立されてから、活動期間の区切りとなる3年目を迎え、様々な活動を総括する重要な年度である。

これまで推進事業と調査研究事業を柱とし、産学官連携により精力的な活動を展開してきており、その中で整理してきた諸課題への対応を着実に実行するとともに、更なる飛躍に向けた基盤を構築する年であると位置づける。

これらの認識に立ち、まず推進事業については、組込みソフト産業の振興・集積に欠かせない人材の輩出に向け、昨年度に引き続き、高度組込みソフト技術者の育成を目的とした「組込み適塾」、ならびに初級・中級の組込みソフト技術者育成を目的とした研修について、カリキュラムの改善や新設により内容を充実し実施する。また、アジア各国との連携による高度技術者（ブリッジ人材）の活用方策について検討していく。

調査研究事業については、組込みソフト産業の振興・集積に必要となる開発支援機能とサービスについて実行レベルの具体的な検討を行うとともに、ソフト開発を効率的に行うための組込みソフト開発企業や技術者の技術力の「見える化」について、それぞれ実現性を検証する。

あわせて、普及啓発活動として、組込みソフト産業の活性化に資する情報発信等各種施策を積極的に実施する。

これらを通じて、次年度以降の推進会議のあり方について、事業運営の仕組みと合わせて検討を行い、関西、ひいては日本のモノづくり産業の活性化に寄与していくこととする。

2. 活動計画

産学官連携をより一層強化し、三位一体の活動スキームを推進することにより、今後の組込みソフト産業の振興・集積に向けた活動の深化と必要なスキームの構築を検討する。

(1) 推進事業

組込みソフト産業分野の人材輩出の拡大に向けて、産学官連携を更に推進し、これまでの研修実施結果と企業ニーズを踏まえたカリキュラムの改善や新規カリキュラムの企画により、高度組込みソフト技術者の育成や、「指導者向け研修」による企業育成担当者を介した効率的な初級・中級技術者の育成を行う。

また、アジアとの連携については、オフショアなどグローバルに展開される組込みソフト産業では、効率的な開発事業を展開するため、日本国内のみならず海外との架け橋となって活躍できる高度技術者（ブリッジ人材）の確保が重要であり、そのためのアジア各国との人材連携方策について検討する。

(2) 調査研究事業

組込みソフト開発支援スキームの構築については、開発基盤機能と企業育成機能の充実により、組込みソフト産業の振興・集積に寄与できるスキームを構築する。

そのために、開発支援に関するビジネスモデルや必要な連携体制のフィージビリティスタディを実施し、会員にとってメリットのある具体的なスキームを構築する。

また、開発プロセスにおいて、共通の資格認定評価を用いることにより効率的な開発を行うための基準の「見える化」についてフィージビリティスタディを実施する。

更に、関西における組込みソフト産業の振興・集積に向け、2010年度以降の推進会議のあり方について、必要な運営方策とあわせて、新たに部会を設置し検討する。

(3) 普及啓発活動

講演会・セミナーの開催や広報活動の積極的な展開により、組込みソフト産業の活性化に資する情報発信等を行う。

① 講演会、セミナーの開催

IPA/SEC（情報処理推進機構/ソフトウェア・エンジニアリング・センター）、JASA（組込みシステム技術協会）などの関係機関と連携して、講演会やセミナーを開催することで、会員メンバーの知識向上、関係機関・団体との交流促進を図る。

② 広報活動

組込み総合技術展 関西「ET-West」（6月）等の展示会への出展や、IPA/SECと連携し、同団体メーリングリストを活用した情報提供などを行う。

また、推進会議ホームページを活用した積極的な情報提供を行い、推進会議の活動を広く紹介する。

（ URL : <http://www.kansai-kumikomi.net/> ）

3. 各部会の活動計画

従来の5つの部会に加え、新たに「組込みソフト開発機構設立検討部会」を設置し、6つの部会により活動を実施する。

(1) 推進事業

① 高度組込みソフト技術者育成プログラム検討部会

システムアーキテクトの育成を目的とした「組込み適塾」（開催：7月～9月を予定）、及び「組込み適塾 実践演習編」（開催：9月～11月を予定）を産業技術総合研究所関西センターと共同で開催し、実践的知識・技術を備え、技術リーダーとして活躍できる人材の育成を行う。

「組込み適塾」については、新たな講義の追加や開催期間の短縮を図るなど、受講者アンケートの結果等を踏まえ昨年度に改善・策定したカリキュラムにより、実施2年目を迎えた本研修の定着を目指す。

また、「組込み適塾 実践演習編」については、新たなカリキュラムとして、アンドロイドを題材とした「クラス設計演習」や産業技術総合研究所関西センターとの連携策である「システム検証 実践演習コース」を策定・実施する。

更には、受講対象をシステムアーキテクトからプロジェクトマネージャへと拡大した「プロジェクトマネージャ 育成コース」の策定を検討する。

② STC (Software Training Center) 検討部会

組込みソフトの QCD (品質・コスト・納期) 向上に必要である「組込みプログラミング力」「ソフトウェアエンジニアリング力」「プロジェクト管理力」の 3 つの基礎技能の習得を、会員企業自らが社内展開できるように、指導者向け研修の実施や指導者用テキストの開発・改善を行う。

指導者向け研修については、時間と品質を自己管理しプロセス改善できる技術者の育成を目的とする「パーソナルソフト開発作法指導者養成講座」(開催: 4 月~5 月) を開催するとともに、再利用性の高い高品質なソースコードを記述できるエンジニアの育成を目的とする「ソフトウェアエンジニアの基礎を固める Quality C 言語作法指導者養成講座」(開催: 10 月~12 月を予定) を開催する。

また、会員企業に対して研修ニーズ把握を目的としたアンケートを行い、企業ニーズに即した実効性のある研修を新たに検討する。

更に、指導者用テキストの開発・改善については、指導者養成講座の理解を深めるための自習教材、社内研修実施のための指導補助テキストや社内研修で使用する教材など、指導者の補助となるテキスト・教材の開発を行う。

これらの取り組みにより、企業内での QCD 向上の取り組みを支援する。

③ アジア開発リソース検討部会

各社の取り組み事例や意見、中国東北 3 省やベトナム・ハノイにおける組込みソフト開発企業や日本語教育の実態調査、日越経済討論会での議論を踏まえ、効率的に高度技術者(ブリッジ人材)を獲得するためのアジア各国との連携方策について、就労支援環境整備などの制度面も踏まえて提言をとりまとめる。

また、立命館大学が中心となって実施している「アジア人財資金構想」が 2011 年 4 月に終了することから、それ以降の連携のあり方について、企業や関係機関へのヒアリングを実施し、検討する。

(2) 調査研究事業

① 組込みソフト開発機構検討部会

「組込みソフト開発機構」(仮称) が提供する開発基盤と企業育成の機能やサービスの「有効性」「実現性」「継続性」についてフィージビリティスタディを実施し、検証する。

あわせて、実現に必要な組織体制、実施プロセス、連携体制、役割分担等を整理し、運用案を策定する。

<「組込みソフト開発機構」(仮称) が提供を予定している機能・サービス>

機能	サービス
開発基盤	組込みシステム検証サービス
	開発支援ツール提供
	組込みソフト開発品質コンサルティング
企業育成	企業マッチング
	受発注ガイドライン提供

<トライアルを行う機能・サービス>

機能	サービス
開発基盤	組込みシステム検証サービス
	組込みソフト開発品質コンサルティング
企業育成	受発注ガイドライン提供

② 資格認定評価制度検討部会

開発プロセスの標準化により、組込みソフト開発企業や技術者の技術力の「見える化」を図り、効率的な組込みソフト開発を実現する。そのために、主な開発分野におけるスキル基準やキャリア基準を定義し、会員企業を対象にしたフィジビリティスタディを通して、その有効性を検証する。

また、開発に関わるプロジェクト規模ごとのスキル基準やキャリア基準による「見える化」についても検討する。

さらに、関西には情報家電分野に加え、制御/FA 機器開発企業が多く立地していることから、当該分野における「見える化」について、企業ヒアリング等を行い検討する。

③ 組込みソフト開発機構設立検討部会

今年度末に活動の区切りを迎える推進会議の今後のあり方を検討するため、本部会を新設する。

関西における組込みソフト産業の振興・集積のための今後の活動のあり方について、「組込みソフト開発機構」(仮称)の設置、必要とされる教育事業、開発支援事業、普及啓発事業の具体的な機能やサービスの提供スキームを、組織運営体制とあわせて検討する。

○ 活動期間：6月～12月を予定

○ メンバー：部会長会社、幹事会社等、推進会議会員より選出予定

以上